

Today's Mission

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里はなれた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な妹と二人暮しだ。この妹は、村の或る律気な一牧人を、近々、花婿として迎える事になっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣裳やら祝宴の御馳走やらを買いに、①はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシラクスの市で、石工をしている。②その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。③久しく逢わなかったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りまえだが、けれども、なんだか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。路で逢った若い衆をつかまえて、何かあったのか、二年まえに此の市に来たときは、夜でも皆が歌をうたって、まちは賑やかであった筈だが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老爺に逢い、こんどはもっと、語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺のからだをゆすぶって質問を重ねた。老爺は、あたりをはばかりの低声で、わずかに答えた。

(太宰治『走れメロス』の一節より)



太宰治、再び登場ですね。有名な作品からの出題。継続して解答に取り組んでいる人、確実にレベルアップしていますよ。添削をするたびに、そう思います。今回は3問。①は「はるばると」という熟語表現を教えてください。②、③は、比較的英語に直しやすいと思います！

徒然なるままに…

“薬も過ぎれば毒となる”ということわざがあります。たとえ良いものでも、度が過ぎれば逆効果だ、という意味ですね。

“薬”というのは、1つの例えであり、他にもいろいろなことが当てはまります。

例えば、睡眠。現在、平日と休日の境目がつきにくい日々が続いており、生活範囲もかなり狭くなっていると思います。そこで、現在問題化しているのが、“睡眠のとり方”です。特に、学生の間でこの問題が顕著になっているようです。生活スタイルの変化により、睡眠時間が極端に多くなったり、少なくなったりして、生活リズムが崩れるという現象が目立ってきているとのこと。

私たちにとって睡眠は欠かすことができない活動です。健康面はもちろん、学習面や日常生活面でも大きな影響を与えます(睡眠と記憶の関係については、コミュニケーション英語Ⅱ“記憶”の授業でも説明しましたね)。適切な睡眠は、「プラスの影響」となりますが、長くとりすぎたら「マイナスの影響」となります。

スポーツも同じことが言えるでしょう。適切な負荷であればよいのですが、極端に負荷をかけすぎたり、間違った負荷のかけかたを続けてしまったりすると、ケガのもとになります。

実際に、生活リズムの変化に悩みを持つ生徒が見られます。起床時間、就寝時間をなるべく一定に保つようにしましょう。一定に保つためにできることを考えてみましょう。学校のホームページや、学年主任からのメッセージなどに、そのヒントがたくさん盛り込まれています。自身の生活を振り返り、生活が乱れ始めていると感じた人は、そのヒントを参考にしながら、立て直していきましょう。

(私の大好きな豆腐も、豆腐オンリーで食べ過ぎると、よろしくないということです。)

～vol.16へ続く～

35 回生投稿窓口・35 回生質問受付窓口 takatsuka2019@gmail.com

(件名に、学年、組、番号、名前、用件を必ず書いて送信。: 気の向くままに vol. 0 参照)
(投稿・質問以外のメールは固くお断りします。休校期間が終了次第、本メールは閉鎖します)

気の向くままに… ～英語で表現コーナー～ vol.16 へ続く

編集 35 回生学年団 3-1 KM